

オープン カレッジ

4月1日に名古屋の金城ふ頭で世界で8カ所目となるレゴランド・ジャパンが開園した。日本には既に東京と大阪に屋内型のレゴランド・デイスカバリー・センターがあったが、名古屋には屋外型の展示やアトラクションによる大規模な施設として開園した。名古屋に開園した理由は中部圏の人口は約2千万人であり、さらに首都圏から約2時間、関西圏から約1時間という立地により多くの集客を期待していることである。しかし、現状では集客に苦

名古屋港の観光振興

施設のイタリア村が開業したが、集客に苦勞し、08年には廃業に追い込まれた。名古屋港の観光施設には地元からの集客だけではなく、増加を続けるインバウンドを取り込むことが急務である。

レゴランドの開園は名古屋市が積極的に誘致を行った成果である。金城ふ頭は自動車の積み出しのように貿易の中心であったが、輸出から直接投資による現地生産への移行の中で余裕が生じたことで「モノづくり文化交流拠点」として整備され、11年にはリニア・鉄道館が開業した。レゴランドは「ものづくり」のコンセプトに合ったものであり、今後予定されている名古屋

に配船されているクルーズ客船「ダイヤモンドプリンセス」は全長約290m、総トン数約11・5万t、乗客約2700人、乗員約1100人が乗船する巨大なクルーズ客船であり、名古屋港にも寄港している。巨大なクルーズ客船の寄港は地元に必要な経済波及効果をもたらすため各地で積極的な誘致が行われてきたが、これまでは地理的な事情から博多港（16年第1位・312回）や長崎港（同第2位・190回）など九州への寄港が圧倒的に多く、名古屋港への寄港は数回程度であった。

魅力ある寄港地になるためには旅客ターミナル等の受け入れ設備とともに、魅力ある観光資源が必要である。

クルーズ客船は入国手続きや下船に要する時間のために実質的には6〜8時間程度の滞在であり、片道最大でも2時間程度の範囲に魅力ある観光地があることが寄港の条件となり、名古屋市内に魅力ある観光資源がなければ、観光客を背後地に奪われることになる。

名古屋は国内主要8都市で行きたくない街ナンバーワンとなり、観光資源の乏しいことが課題である。名古屋城天守閣の木造での復元が決まったように武将観光やものづくりによる産業観光のような特徴を打ち出し、名古屋港を魅力ある観光地化することで急増するクルーズ客船の寄港の受け皿とすることが期待される。

クルーズ客船

寄港への期待

戦しており、家族向けの割引制度の導入などで立て直しを図っている。

名古屋港には2005年にガーデンふ頭に複合商業



名古屋大学園学
現代マネジメント学部准教授
水野 英雄

みずの ひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。1968年生まれ。